



令和6年9月1日現在
世帯数 : 869世帯
人口 : 1513人
男 : 720人
女 : 793人

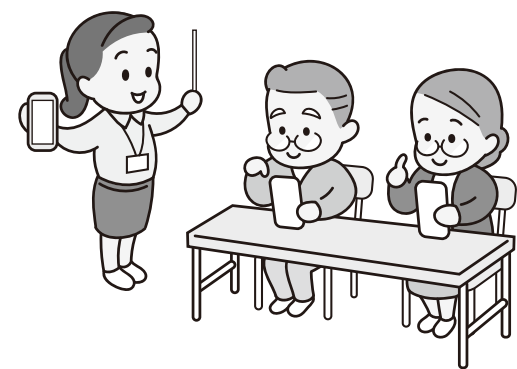
## 第二地区 初めてのスマホ講座



Mウイング4階の第一地区公民館は8月20日、26日、9月3日全3回の日程で、「初めてのスマホ講座」を開きました。中央地域包括支援センターの職員を講師に、70代から80代までの8人が参加してスマートフォンを使い方を学びました。

初回の20日は、講師から、「スマホ」は単なる携帯電話ではなく、携帯型のパソコンに通信機能が付いたものであることや、携帯型通信機器の歴史、使用する回線の違いなどについて説明を受けたあと、実際にスマートフォンに触れて操作してみました。

操作に当たっては、参加者一人一人に松本大学のインターン生や看護学校の実習生、市職員などがマンツーマンでつきました。



参加者には機器を貸し出し、電源を入れるところから、丁寧に教わっていました。設定画面を開いて、文字サイズを変更したり、電話帳に中央地域包括支援センターの電話番号を登録したりしました。自分のスマホがあっても、普段面倒な操作は家族にやってもらっているという参加者



マンツーマンで熱心に講座を受ける参加者の皆さん

も多く、慣れない手つきで、一生懸命挑戦していました。講座は、昨今の「DX推進」の流れの中で、社会インフラの一つとして、スマートフォンの必要性は高まっており、今までは、「電話とメールができればいい」と思っていた人たちにも、様々な機能を使ってみるきっかけにしても「暮らしを便利で豊かにする」「災害に備える」「人とつ

ながる」の三つを目的に、参加者は、楽しみながら、スマートフォンについて学びました。実際に参加した方は、「電話やメール以外に、スマホでこんなことができるのかを知ることが大切。松本城の電子チケット化や二次元コードの読み取りなど、日常生活でもスマホは必需品になりつつある中で、スマホの操作方法が分ればできることがどんどん

増えていくのではないかと話していました。第一地区公民館では、今回のようなスマホ講座の他にも、スマホの使い方等に関する相談を随時受け付けています。お困りのことがございましたら、Mウイング4階の第一地区公民館(32・1550)へお気軽にお立ち寄りください。(利用料金についてはお答えできない場合があります)

## 播隆上人像

このところ、松本の町にも大勢の外国人観光客が目立ちます。以前とちよっと違って欧米の方が増えたようです。ある国際調査では、訪れたい国のランクで今年初めて日本が世界一になったそうです。歴史と伝統、文化（アニメや日本食も含まれます）、自然の美しさ、清潔さと安全性などが理由に上がっているとのこと。

それにしても松本の町、彼らにどんなふう映っているのでしょうか。駅を降り立って外に出た時、街路の向こうに美ヶ原などの山並みが見えるのに感動した人もいました。「チロルに似ている」なんて感想も聞きましたが、比較的の基準がヨーロッパなわけですね。

さて、駅前広場には槍ヶ岳開山者として知られる浄土宗の僧、播隆上人の像が立っています。日本近代登山の父と言われるウォルター・ウエストンもイギリスの宣教師でした。ヨーロッパアルプスや日本の山々を踏破し、特にその著書で日本アルプスを世界

で紹介してくれました。ウエストンというと、宗教家というより登山家として人々には認識されていますが、駅前の播隆上人はどうでしょう。極楽浄土を求めて登った槍ヶ岳から見た槍ヶ岳に惹かれ、苦勞の末登頂し、その後も何度か登頂しつつ、多くの人が登れるように登山道を整備したことで知られています。ウエストンが日本を訪れるのはその60年以上後です。

ちよっと脱線しますが、ヨーロッパ発祥のいわゆる「近代化」というのは、合理的な精神（科学的思考）、封建制を否定する自由な精神、未知への冒険精神などがその要素とされますが、登山ーアルピニズムは近代的冒険精神発露の象徴的スポーツでした。ウエストンはそんな近代化された社会から来た人間で、自己認識もアルピニストでした。

播隆上人はおそらく自他とも認識する宗教家で、その登山行為は宗教的動機からと、同じく自他とも認識していたとは思いますが、執拗な登山への情熱には自他とも気づかない近代的アルピニズム精神があったのではないかと思うものです。明治維新における

奇跡的に早い近代化成就の裏に、すでに日本人の中に近代精神が底流としてあったと思われ、それが播隆上人を突き動かしたのかもしれない。

播隆上人の槍ヶ岳登頂には地元の人たちの協力がありました。その中の一人が三郷南小倉の中田又重という人物で、依頼されて播隆さんを槍ヶ岳へ案内したことで知られています。皮肉っぽく言えば、槍ヶ岳へは大昔から多くの狩人が通っていたわけで、彼らからすれば槍ヶ岳などちよっとした岩の尖塔だったことでしょう。それはともかく、その中田又重さんの像も存在し、播隆さんの像といっしょに置こうという話もありましたが実現は

していません。エベレスト初登頂のエドモンド・ヒラリーと案内人テンジン・ノルゲイの銅像はエベレスト登山口の空港に燦然と立っています。



空港に立つヒラリーとテンジンの銅像



松本駅前に立つ播隆上人像

## 電車通り

松本ほんぼんが終わったと思つたら、サンバ調の曲を流していたスピーカーから聞こえてきたのはブルームス。今年もセイジ・オザワ松本フェスティバルの季節がやってきた。ただいつもと違うのはそこに総監督がいないこと。桐朋学園の創立者の一人で偉大な教育者であった齊藤秀雄の没後50年で、後にフェスティバルにつながるメモリアルコンサートから40年の節目の今年、偉大なマエストロ不在のOMFとなった。

総監督の功績に心からの感謝と敬意を表し、フェスティバルの全公演が総監督に捧げられたが、そのほかにも市立博物館ではSKO結成40年記念展が、美術館では総監督が松本で過ごした日々の記念展示が、信毎メディアガーデンでは「ようこそ楽都 de ハーモニー」が開催された。

また、誕生日である9月1日を「小澤征爾の日」と定め、総監督を想い、生誕を祝うことで音楽文化の継承を願う催しや、「感謝の会」も開かれた。新しい時代に向けて、大きな一歩を踏み出すフェスティバルとなった。